

第83期

中間報告書 株主の皆様へ

2021年12月1日 ▶ 2022年5月31日

アステナホールディングス株式会社

証券コード：8095



IRメール配信

最新の適時開示等、当社IRに関する情報について、
ご登録のメールアドレスにお知らせいたします。
<https://www.astena-hd.com/ir/IRmail.html>





アステナホールディングス
株式会社

代表取締役社長

岩城 慶太郎

株主の皆様におかれましては、日頃より当社グループ事業へのご理解とともに多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここでは、当社第83期第2四半期累計期間（2021年12月1日から2022年5月31日まで）における営業状況をご報告し、通期業績の見通しと株主の皆様への利益還元についてご説明させていただきます。

2022年8月

第2四半期までの営業状況

収益認識会計基準等適用により減収 HBC・食品を除き収益性が一時低下

この半年間は、新型コロナウイルス感染症による影響が緩和され、経済社会活動の正常化が進みましたが、中国における感染再拡大やウクライナ情勢の長期化などが懸念される状況となり、原材料・エネルギー価格の高騰や資材の供給不足、物流費の上昇、円安の進行などによる悪化傾向が各市場に広がってきました。

当社グループの営業状況は、全体でほぼ前年同期並みの売上水準を維持したものの、収益認識会計基準等の適用により売上高において約111億円の影響が生じ、利益面では、ファインケミカル事業、医薬事業、化学品事業の収益性が前年同期と比較して低下しました。結果として上半期の連結業績は、売上高249億3千4百万円（前年同期は362億4千9百万円）、営業利益7億2千万円（同14億9千4百万円）、経常利益8億3千5百万円（同15億7千3百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益9億3千2百万円（同9億7千5百万円）となりました。

なお参考値として、従来の会計基準等を適用した業績を算出すると、売上高360億2千5百万円（前年同期比0.6%減）、営業利益7億2千万円（同51.8%減）、経常利益8億3千5百万円（同45.6%減）、税金等調整前四半期純利益14億6千4百万円（同4.7%減）となります。

営業状況を事業セグメント別に振り返ると、ファインケミカル事業は、医薬品原料分野において、輸入品の新規GE品目と中間体が売上に寄与し、新型コロナウイルス感

染症関連の新規受託品や有機EL材も好調を示しましたが、CDMO分野は、事業環境の変化に加え、案件納期の時期的変動の影響も受け、低調に推移しました。

HBC・食品事業は、化粧品原料分野および通販化粧品分野、食品原料分野がいずれも堅調を維持するとともに、一般用医薬品を主体とした卸売分野もマルマンH&B株式会社が取り扱う韓国コスメや自社ブランドのマスクが売上を伸ばすなど、総じて好成果を上げました。

医薬事業は、医療用医薬品分野において、主力外皮用剤や緩下剤、抗アレルギー剤が売上を伸ばしながらも、各種コスト上昇に伴う売上原価への影響が顕著に表れ、収益性が低下しました。美容医療分野は、環境に即した営業活動を展開して成果を上げ、岩城製薬佐倉工場株式会社も受託品の生産が堅調に推移しました。

化学品事業は、表面処理薬品分野において、受動部品や微細配線形成向けの既存販売が伸び悩み、予定していた新規採用計画も第3四半期に延期されるなど、低調が続きましたが、表面処理設備分野は、国内プリント基板メーカーの業績回復を受け、堅調に推移しました。

業績の進捗と通期の見通し

下半期におけるコストの増加を見込み 通期業績の予想数値を下方修正

当期は、コロナ禍からの回復を背景に、実質的に増収基調を維持する見通しですが、収益認識会計基準等の適用に伴い減収となり、利益面は、岩城製薬株式会社の新製品開発への先行投資、スペラファーマ株式会社及び岩城製薬佐倉工場株式会社の事業環境の変化により減益を想定してい

ます。

先に述べました上半期の連結業績は、期初の予想数値に対して、売上高は概ね計画通りに進捗しているものの、利益面に遅れが生じています。加えて下半期の事業環境においては、為替の急激な円安進行や、原材料価格および物流費の高騰に伴うコスト増加の影響が広がり、想定以上に厳しい状況になると見込んでいます。

以上を踏まえ、通期の連結業績予想については、期初予想における利益面の数値を下方修正し、売上高500億円、営業利益10億円、経常利益10億円、親会社株主に帰属する当期純利益11億円としました。

株主の皆様にお伝えしたいこと

中間配当は1株当たり9円を実施 前期に続き年間配当同18円を予定

今回の中間配当は、利益還元の拡充を目指す方針のもと、予定通り1株当たり9円を実施しました。期末配当は引き続き同9円を予定しており、年間配当額は合わせて同18円（前期同額）となる見通しです。

私たちは、2030年に向けた中長期ビジョン「Astena 2030 “Diversify for Tomorrow.”」のもと、サステナビリティの確立を目指し、「プラットフォーム」「ニッチトップ」「ソーシャルインパクト」の各戦略を通じて企業価値の拡大を図るとともに、ESG/SDGs経営を実践してまいります。

株主の皆様におかれましては、当社グループ事業のさらなる発展にご期待いただき、これからも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

医薬品原料に関わる お客様のより細かい要望に ワンストップでお応えいたします



代表取締役社長
二神 英祐



事業概要

● 商社機能

商社機能では、これまで培ってきた情報・ネットワークを活用し、国内に約300社、海外に約40社を超えるパートナー企業と協業し、グローバルで医薬品原料の調達を行っています。

調達には外国製造者認定代行から、国内管理人としてMF*の管理を多数実施、GMP*に沿った品質保証体制を構築しております。また一般原薬に加え、扱いが難しい高活性原薬*の取り扱いが可能である自社の試験室と倉庫を有し、様々なお客様の要望にお応えするため商品の安定的な供給を進めています。

*MF：医薬品医療機器法第八十条の六第一項で規定される原薬等登録原簿制度

*GMP：製造所における製造管理、品質管理の基準

*高活性原薬：少量で人体に強い薬効を与えるもの又は毒性がある成分



● メーカー機能

メーカー機能では多彩かつ高度な合成技術をもとに、原薬をはじめとした医薬中間体や化成品等の製造・販売を行っています。

特に原薬では解熱鎮痛消炎剤での国内トップシェアを争い、その中でもフェニレフリン塩酸塩は世界屈指のシェアを有しております。また、商品の試作・製造まで一貫した研究開発、受託製造の少量からの幅広いロット生産に柔軟な対応生産能力を備えております。



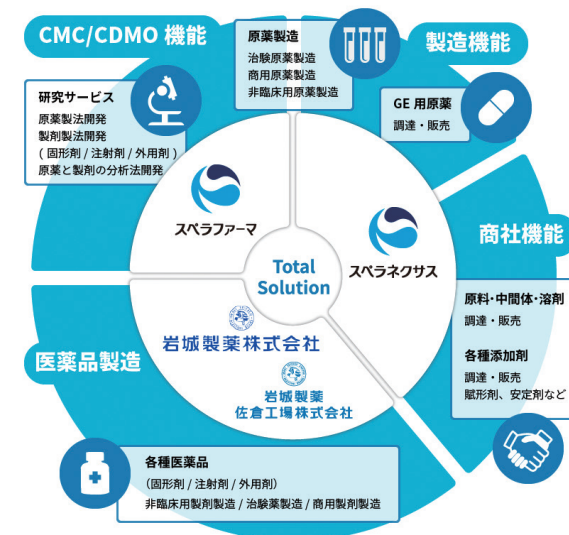
グループ会社紹介／インタビュー

Q スペラネクサスの企業理念について お聞かせください。

当社は、「高品質医薬品原料、中間体、添加剤の製造販売を通して世界の医療と健康に貢献する」というミッションを掲げ、これを実現するための行動指針としてクレド（私たちの信条）を定めています。クレドは、1.Respect for our Stakeholders（誠実、信用、貢献、感謝、尊敬を原則とし、お客様や社会の問題解決に最善を尽くす）、2. Sustainable Improvement and Growth（現状に満足せず、常に全体最適の視点で考動し、自社技術とサービス品質の向上に努める）、3.Co-Creation（多様性を尊重し、対話を通して互いに学び合い、協働し、新たな価値を共創することで、持続的成長を実現する）の3つです。私たちが常に立ち返るべきものとして、社員月例会においても毎回必ず触れております。

Q 事業・グループ各社を通して スペラネクサスの強みについて教えてください。

当社は、イワキ株式会社、岩城製薬株式会社の医薬品原料、化成品などを主力とするファインケミカル事業が統合されて誕生しました。両社が長年積み重ねてきた「信用」を事業の礎とし、メーカー、商社の両機能を兼ね備え、お客様の多様なニーズに対応できる力が最大の強みと考えております。又、グループ会社であり、国内最高レベルのCMC・製剤開発力を有するスペラファーマ株式会社や中分子領域で特徴的な技術を有するJITSUBO株式会社と協働することで、開発初期段階から生産を意識した開発にも貢献できる体制もアピールポイントと言えます。



Q 事業戦略や今後力を入れていきたいこと、 目指すべきビジョンについて教えてください。

アステナグループのキーワードの1つでもある「サステナビリティ」を体現すべく、ポートフォリオの再構築に取り組んでおります。一例としまして、高薬理活性領域のサービス拡充が挙げられます。当社は、すでに東京都北区の新分析センターで高薬理活性輸入原薬の受入試験と保管が可能な体制を整えておりますが、来期中より静岡県掛川市の自社工場において製造受託サービスをスタートする計画で、お客様に更に幅広いサービスをご提供できる体制となります。ポートフォリオ再構築の取り組みにつきましても、スペラファーマ株式会社、JITSUBO株式会社が有する技術とのコラボレーションがKFSであり、引き続きグルーバー丸で、ヘルスケア原料調達プラットフォームとしての存在感を高めて参ります。

お取引先様の課題解決に向けた様々なニーズに当社グループのあらゆる機能で応える「策揃え」を実現し、変革スピードを向上させるため、プロダクツ毎のバリューチェーンに従ってファインケミカル事業、HBC（Health&Beauty Care）・食品事業、医薬事業、化学品事業の4つの事業を展開しています。

ファインケミカル事業



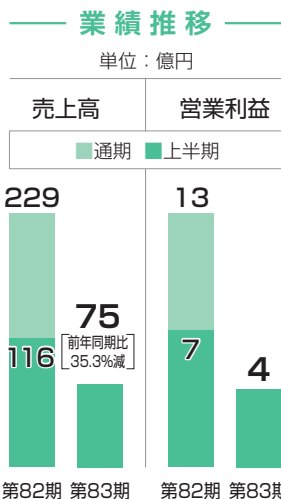
● 事業内容

医薬品原料の製造から販売までを行っています。また、原材料調達からCMC研究開発、商用原薬生産までを行っています。



● 当期のポイント

医薬品原料分野は、新規GE品目及び中間体の売上の寄与、市場における需要量増加、新型コロナウイルス感染症関連の新規受託品及び有機EL材が好調だったことにより、堅調に推移。
CDMO分野は、事業環境の変化に加えて、案件納期の時期的変動の影響も受けて低調に推移。



HBC・食品事業

※HBC=Health&Beauty Care



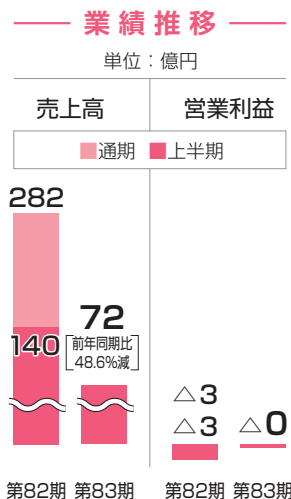
● 事業内容

一般用医薬品、機能性食品原料・化粧品原料の販売、化粧品の通信販売及びOEMなどを行っています。



● 当期のポイント

一般用医薬品を主体とした卸売分野では、構造改革を進め、化粧品原料分野及び通販化粧品分野は堅調に推移。加えて韓国コスメ、自社ブランドのマスクが品薄になるなど好調に推移。
食品原料分野は、大口受注があったこともあり堅調に推移。

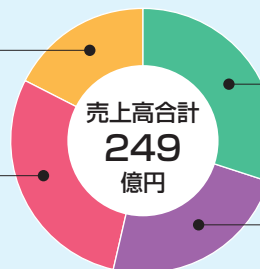


売上高構成比（第83期上半期）

（2022年5月31日時点）

化学品事業 17.3%

HBC・食品事業 28.9%



ファインケミカル事業 30.2%

医薬事業 23.6%

医薬事業



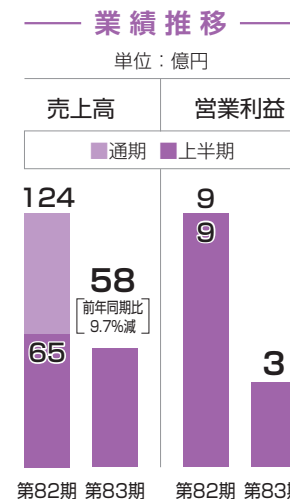
● 事業内容

医薬品の製造から販売までを行っています。また、創薬支援サービスなどのバイオ関連事業や医療機器の販売を行っています。



● 当期のポイント

医療用医薬品分野は、主力外皮用剤に加え、緩下剤や抗アレルギー剤の売上が伸長する一方、各種コスト上昇に伴う売上原価への影響から、低調に推移。
美容医療分野は、環境に即した営業活動を展開し堅調に推移。

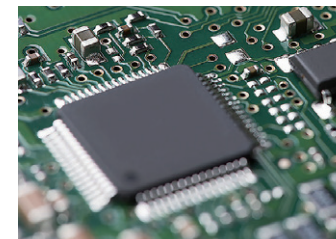


化学品事業



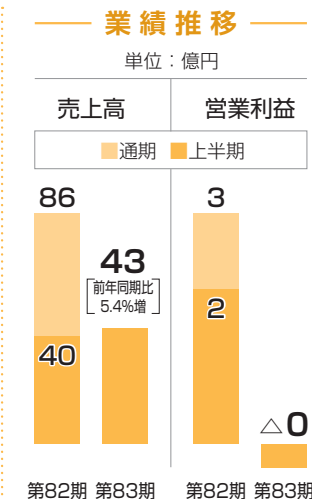
● 事業内容

表面処理薬品の製造・販売、化学品原料などの販売を行っています。

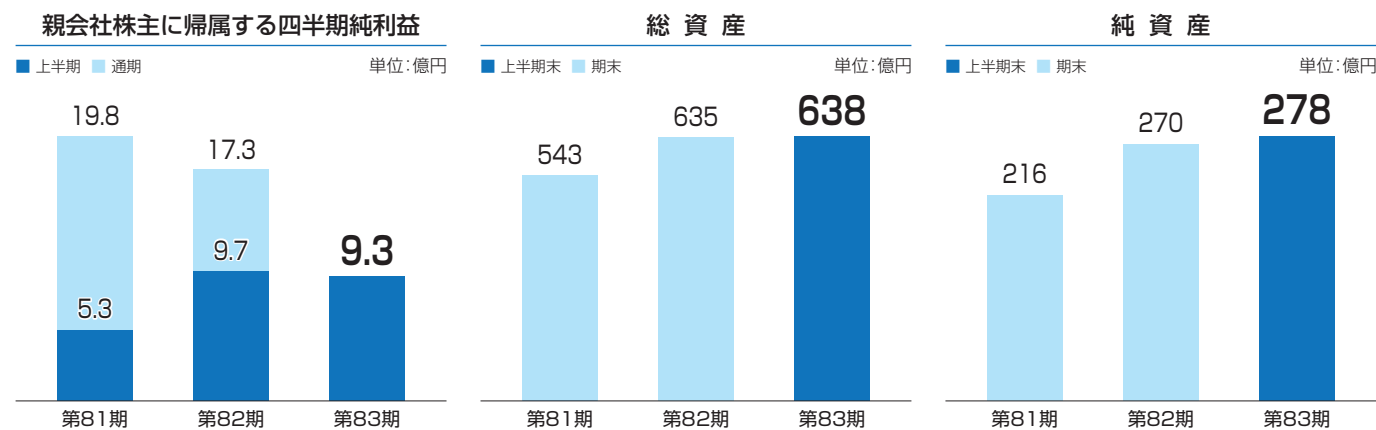
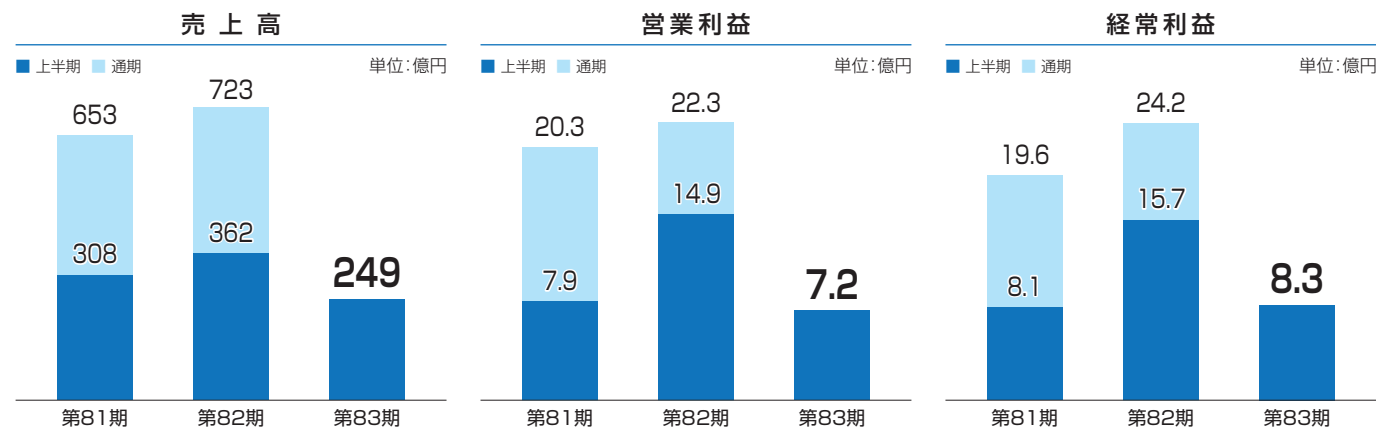


● 当期のポイント

表面処理薬品分野では、主力である受動部品、微細配線形成向けにおいて既存販売の一部が伸び悩み、新規採用計画が第3四半期に延期の影響で、低調に推移。
表面処理設備分野は、上海ロックダウンによる影響を受けたが、国内プリント基板メーカーの業績回復により、堅調に推移。



	第82期上半期		第83期上半期
売上高	362億円	➡	249億円
営業利益	14.9億円	➡	7.2億円
経常利益	15.7億円	➡	8.3億円
親会社株主に帰属する四半期純利益	9.7億円	➡	9.3億円



連結貸借対照表			(単位: 百万円)
科目	第83期 第2四半期 2022.5.31現在	第82期 2021.11.30現在	
資産の部			
流動資産	37,438	38,056	
固定資産	26,433	25,496	
有形固定資産	12,812	11,950	
無形固定資産	8,632	8,411	
投資その他の資産	4,988	5,134	
資産合計	63,871	63,553	
負債の部			
流動負債	26,746	26,639	
固定負債	9,294	9,908	
負債合計	36,041	36,547	
純資産の部			
株主資本	26,613	25,818	
資本金	4,557	4,528	
資本剰余金	6,538	6,516	
利益剰余金	15,752	15,027	
自己株式	△ 234	△ 254	
その他の包括利益累計額	1,174	1,181	
その他有価証券評価差額金	906	985	
繰延ヘッジ損益	0	△ 0	
為替換算調整勘定	180	103	
退職給付に係る調整累計額	86	92	
非支配株主持分	42	6	
純資産合計	27,829	27,006	
負債純資産合計	63,871	63,553	

連結損益計算書			(単位: 百万円)
科目	第83期 第2四半期累計期間 2021.12.1～2022.5.31	第82期 第2四半期累計期間 2020.12.1～2021.5.31	
売上高	24,934	36,249	
売上原価	16,782	27,676	
売上総利益	8,152	8,573	
販売費及び一般管理費	7,432	7,078	
営業利益	720	1,494	
営業外収益	177	142	
営業外費用	62	63	
経常利益	835	1,573	
特別利益	688	1	
特別損失	59	23	
税金等調整前四半期純利益	1,463	1,552	
法人税、住民税及び事業税	800	669	
法人税等調整額	△ 264	△ 93	
法人税等合計	535	576	
四半期純利益	927	975	
非支配株主に帰属する四半期純利益	△ 4	—	
親会社株主に帰属する四半期純利益	932	975	

連結キャッシュ・フロー計算書			(単位: 百万円)
科目	第83期 第2四半期累計期間 2021.12.1～2022.5.31	第82期 第2四半期累計期間 2020.12.1～2021.5.31	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,328	1,293	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 22	△ 2,524	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,901	4,605	
現金及び現金同等物に係る換算差額	47	38	
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 548	3,413	
現金及び現金同等物の期首残高	10,807	7,447	
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	2	—	
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,261	10,861	

株主優待制度のご案内

株主の皆様に対し、日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方々に中長期的にわたり継続して当社株式を保有していただくことを目的に、2019年11月期より株主優待制度を導入いたしました。

● 株主優待の内容

毎年11月30日現在の株主名簿に記載された100株以上かつ1年以上保有の株主様は、保有株式数と保有年数に応じて優待品をご選択いただけます。

保有年数	保有株式数	
	100株～999株	1,000株以上
1年以上 3年未満	Aコース	Bコース
	3,000円相当の自社商品 または 1,000円相当の商品・寄付	5,000円相当の自社商品 または 2,000円相当の商品・寄付
3年以上	Bコース	Cコース
	5,000円相当の自社商品 または 2,000円相当の商品・寄付	10,000円相当の自社商品 または 3,000円相当の商品・寄付

株主優待寄付金のお知らせ

本年度は、寄付を選択されました90名の株主様から、総額190,000円の優待品相当額の寄付金をお預かりし、下記のとおり寄付させていただきました。

寄 付 名 義：アステナホールディングス株式会社
実 施 日：2022年6月30日
寄 付 先：日本赤十字社 東京都支部 190,000円

多くの株主様より温かいご芳志を賜り、心より御礼を申し上げます。

株主優待サイトのご案内



WEB申込が行える株主優待サイトを開設いたしました。各商品の説明や使用方法、成分等、より詳細な優待品情報を掲載しております。郵便費用の削減や、お申込み商品・アンケート集計の簡略化にもつながりますので、是非ご活用いただけますと幸いです。

※優待期間のみの開設のため2022年6月30日付で閉鎖しております。

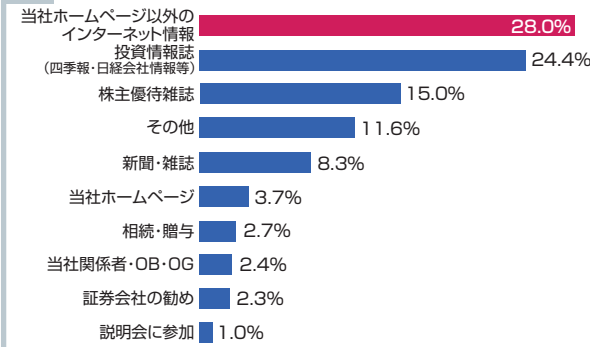
● 2022年11月期の株主優待カタログイメージ



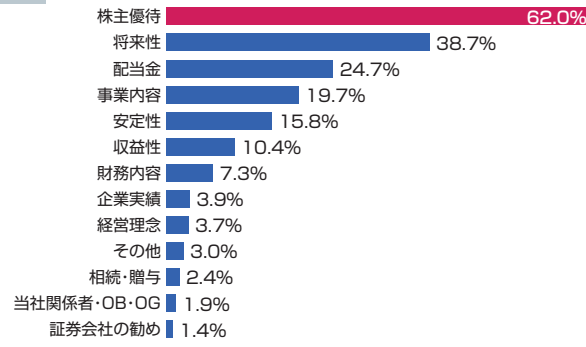
2021年11月期 株主優待アンケート集計結果のご報告

ご回答者 10,632名

Q1 当社をお知りになったきっかけをお聞かせください



Q2 当社に投資された理由をお聞かせください



いただいたご意見・ご感想



昨年度より株主優待の選択肢が増え、より魅力的になりました。今後も、買い増しも含め、応援して参ります。

日頃より、度重なるご支援賜りまして、誠にありがとうございます。毎年株主の皆様にご回答いただいているアンケートを確認し、少しでも株主様のご要望にお応えできるよう、優待内容の拡充に努めております。今回の優待においては、前回アンケートにて当社の所在地である珠洲市に関連する優待品を導入してほしいとのお声を数多くいただきましたので奥能登商品として導入いたしました。また自社商品においても化粧品以外も選択できるようにしてほしいとのご要望がありましたので、シャンプーやカレー、サプリメント等を導入いたしました。



株主優待のカタログに各商品の説明を入れてほしいです。

優待商品の選択肢を増やしたことによりスペースの確保ができなかったこと、また株主優待専用サイトで商品の詳細をご確認いただけることから、カタログへの商品の詳細情報を割愛しておりましたが、複数の株主様より同様の意見をいただきました。ご不便をおかけしてしまい申し訳ございませんでした。次回以降においては自社商品のPRも込めて、商品の魅力が伝わるようなわかりやすい掲載となるよう改善に努めますので、引き続きご支援ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



会社概要

社 名 アステナホールディングス株式会社
本 社 所 在 地 東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号
創 業 1914年(大正3年)7月10日
設 立 1941年(昭和16年)9月20日
資 本 金 45億5千7百万円(東証プライム市場)
社 員 数 (単体) 106名 (連結) 1,376名
主な事業内容 グループ会社の経営管理等
主要取引銀行 みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行

取締役および監査役 (2022年6月1日現在)

代表取締役社長	岩城 慶太郎	社外取締役	中川 有紀子
常 務 取 締 役	大森 伸二	常勤監査役	山口 誠
取 締 役	熱海 正昭	常勤監査役	磯部 俊光
社 外 取 締 役	越智 大藏	監 査 役	安永 雅俊
社 外 取 締 役	川野 毅	監 査 役	秋山 卓司
社 外 取 締 役	二之宮 義泰		

株主メモ

事業年度 毎年12月1日～翌年11月30日
期末配当金受領株主確定日 毎年11月30日
中間配当金受領株主確定日 毎年5月31日
定時株主総会 毎年2月
株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
同連絡先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話：0120-782-031 (フリーダイヤル)
上場証券取引所 東京証券取引所
公告の方法 電子公告により行う。
公告掲載URL <https://www.astena-hd.com>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

- (ご注意) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行)にお問合せください。なお、三井住友信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。



アステナホールディングス株式会社
〒103-8403 東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号
電話：03-3279-0481

株式の状況

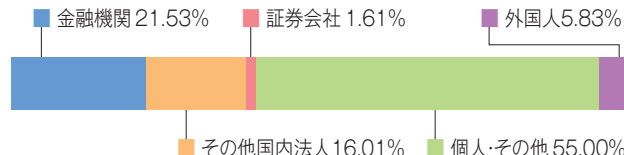
発行可能株式総数 136,000,000株
発行済株式の総数(自己名義株式10,814株を含む) 40,772,366株
株主数 40,434名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,060	9.96
株式会社ケーアイ社	2,051	5.03
株式会社CNV社	1,720	4.21
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,377	3.38
株式会社三菱UFJ銀行	1,188	2.91
アステナグループ従業員持株会	1,044	2.56
岩城修	970	2.37
木下圭一郎	670	1.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(役員報酬BIP信託口・76082口)	666	1.63
株式会社大阪ソーダ	658	1.61

(注) 持株比率は自己名義株式(10,814株)を控除して計算しております。

株式分布状況 (所有者別分布状況)

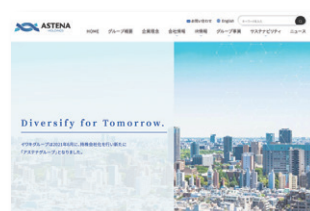


(注) 小数点第2位まで記載(第3位以下は切り捨て)しております。
持株比率は自己名義株式(10,814株)を控除して計算しております。

WEBサイトのご案内

アステナホールディングスのホームページでは、様々な企業情報やIR情報をお届けしています。どうぞお気軽にアクセス、ご利用ください！皆様方からのアクセスをお待ちしております！

<https://www.astena-hd.com/>



アステナホールディングス株式会社
〒103-8403 東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号
電話：03-3279-0481



環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。